

第2回会議箱根町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

1. 日 時 平成27年9月18日(金) 10:00~11:50

2. 場 所 箱根町役場分庁舎4階 第5会議室

3. 出席者【委員】

大塚仁司、工藤徳行、鈴木達之、柳下智恵子、高橋啓介、
久郷則明、田中啓、佐々井力二郎、石田尚久、三浦健司、
千葉哲也、鈴木恵美

【箱根町】

吉田企画観光部長、栢沼企画課長、村山企画課副課長、
齋藤企画調整係長、鈴木主任主事

【人口ビジョン・総合戦略策定支援委託業者】

株式会社ぎょうせい 矢野主任研究員

4. 内 容

(1) 開会

企画課長

おはようございます。第2回まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催します。本日の出席者でございますが、本日は全員の方にご出席いただいております。また、本日の会議は事前に町ホームページにおいて開催を周知しているものでありますが、1名の傍聴希望者があり、座長了解の上、事務局において許可しておりますので報告させていただきます。

続きまして、会議資料の確認をさせていただきます。資料は事前に送付させていただいておりますが、資料1から3と、参考資料、計5種類になります。過不足等、よろしいでしょうか。

それでは、最初に座長からごあいさつをいただきまして、引き続き議事進行をお願いします。

座 長

皆さんおはようございます。本日はお足元が悪いなかご出席いただきまして、ありがとうございます。今回で第2回目の会議となりますが、前回欠席でした委員さんより自己紹介を兼ねてごあいさつと、本会議の所掌事務であります、「まち・ひと・しごと創生」に関するお考え等、お聞かせいただければと思います。

《前回欠席委員より自己紹介など》

委員

この、まち・ひと・しごと創生の観点は、現状住まわっている方の満足度を上げないことには、新しい人を100人転入させたとしても、すぐ出て行ってしまいます。ですので、今住んでいる人の満足度を上げることが喫緊の課題だと思います。

また、小中学校の保護者と会いますが、子育ての将来が全く見通せていないという人が多いと感じており、町の大人がなるべく多くの子どもたちと接し、将来をなるべくリアルな形で見せてあげられるようにしてほしいと思います。

(2) 議題

ア 箱根町人口ビジョンについて

座長

それでは議題に入らせていただきます。議題(1)「箱根町人口ビジョンについて」、事務局から説明をお願いします。

【事務局から資料1説明】

事務局

前回の会議において、箱根町の人口動向を説明しましたが、資料1はそれを詳細に記載したもので、将来の方向、こう仮定しますというところまで、本日はお示ししております。そのポイントについて説明します。

1ページをご覧ください。国が創生法に基づき長期ビジョン、総合戦略をつくり、都道府県、市町村においても、ビジョンと総合戦略を作っていくことになっていますが、前回もお見せしましたとおり、人口は減少傾向となっています。

3ページです。社人研推計によると国の人口は2060年には8,700万人にまで減少する。これは相当大きな減少であり、この状況では将来の国の存続ということも含めてどうなのかということで、出生数を持ち直して、上の曲線を確保したいという国の考えであり、それに基づいて、本制度ができているということです。

4ページですが、出生率から見る人口減少ということで、平成25年の合計特殊出生率は1.43であり、人口置き換え水準である2.07をかなり下回っているのが現状です。

5ページですが、東京圏を中心に人口が集中していることですが、今回の地方創生の目的の一つが、東京圏への過度の人口集中の解消があります。

7ページは神奈川県の人々の現状ということで、人口は増加していますが、少子高齢化が進行しているということにな

ります。

8 ページは県内他市町を比較していますが、本町の場合は高齢化率も高く、社会増減率も減少にあるということになっています。

9 ページは本町の総人口の推移を表していますが、町内の保養所などが閉鎖されたりして、住んでいられた方が転出したことなども理由としてはあると思います。

10 ページは年齢3区分別人口と高齢化率の推移ですが、高齢化率は平成17年の段階で20パーセントを超え、超高齢化社会に入っている、少子高齢化も一層進行しているというのが実情です。

11 ページは、平成7年から22年までの人口ピラミッドの推移をお示ししております。15～24歳の層の減少、団塊世代の高齢化等により、上が重いピラミッド型になっていくということです。

12 ページは人口自然増減を見ていますが、徐々に自然減で推移、死亡数が出生数を上回る状態で推移しています。

13 ページは15～49歳の女性人口の推移ですが、これは出産をする年代の該当ということで、出生数に大きく関わってくることになりますが、この世代の人口も減少しているということになります。

14 ページで合計特殊出生率ですが、本町では1.06と、先ほどの2.07とは大きくかけ離れている状況です。この出生率の低さが少子化をもたらしている状況です。

15 ページは世帯構成では、会社などの独身寮の単身者、世帯が全体の18.8パーセントであるなど、単身者でありますので、基本的には未婚であると思いますが、県と比べてもかなり多いという状況で、下の表、年齢階級別未婚率もかなり高いことが分かります。出生率が低いということは、これら単身世帯が多いことや未婚率が高いことを裏付けている状況です。

16 ページは社会増減の推移ですが、転入転出を比較すると、転出が転入を上回り、社会減が進んでいることが分かります。本町の人口減少は出生率が低い自然減、転出が多い社会減、両方で引き起こされていることが分かります。

17 ページ、通勤通学の流動ですが、ここで注目すべきは、小田原市との関係です。本町から小田原市に通勤通学で動い

ている数は633人ですが、逆は3,825人もいるということで、本町に職場があり、通勤してくるといふ人が非常に多いという特徴があります。

18 ページから 20 ページは年齢別の転入元、平成 24 から 26 の推移です。

21 ページからは転出先の推移です。

小田原への転出が多いですが、東京都への 20 代の転出が多く、進学、就職によって本町を出ていくという層がある程度いることが見られます。

24 ページ以降は、男女別の純移動数を示しています。

27 ページは転入元の詳細、28 ページは転出先の詳細で、小田原市からの転入が 76 人と一番多いですが、転出も 215 人という状況です。

29 ページは年齢階級別人口移動の推移ですが、20 代の転出超過が非常に大きいということをお示ししています。

30 ページは総人口に与えてきた自然増減と社会増減の影響をグラフで表したものになりますが、減少状況は少し落ち着いてきている状況がわかります。

31 ページは産業別就業者を見ていますが、男女別共に宿泊飲食サービス業が多く、男性は建設、卸小売り、女性は卸小売り、生活関連サービス、娯楽業などが多くなっています。

32 ページは産業別就業者数を特徴が表れるグラフとしたものになりますが、宿泊飲食サービス、また、33 ページは、年齢別に表したもので、これらの産業は、15～29 歳の若い世代など、幅広い年齢層の受け皿になっていることがうかがえます。

これらを勘案し、34 ページから将来人口の推計となります。パターン 1 が社人研推計準拠、パターン 2 が 2040 年までになるが、日本創成会議推計準拠になりますが、この状況で進んでいくと社人研推計では、2060 年で 4,286 人に、日本創成会議準拠では、2040 年に、6,203 人まで減ると推計されています。

これに対して、シミュレーション 1 として、パターン 1 に合計特殊出生率が、平成 37 年に 1.8、平成 42 年に 2.1 に上昇するという推計で、シミュレーション 2 は、これにプラスして社会増減の差が無くなるという推計、設定で行っています。

36 ページからはそれぞれの推計を年齢 3 区分別人口と高齢

化率のグラフで表したものの、39 ページは、将来人口に及ぼす自然増減、社会増減の影響度を示したのですが、本町の場合は、自然増減の影響、出生が高くなれば人口減少は少なくなる、こちらのほうの影響度が大きいというふうに見られています。

42 ページに戻っていただき、人口ビジョンの4つの目標、県の目標を参考に、本町の4つの目標を考えるのはどうかということです。

44 ページではまとめとして、平成27年1月の町民アンケートで定住意向調査を行いました。住み続けたいかどうかという問いに対し、町外への移住を希望するという方が3割あります。その理由としては、日常の買い物に不便、通院、交通渋滞、教育環境が十分でないという回答が多く、こういう面を克服していくことが課題であると見ています。先ほども申しました本町に職場を持ちながら小田原に住むという状況を考え合せながら今後の総合戦略を立てていくことが必要だと考えております。

座 長

ありがとうございました。前回イメージとして同じような傾向があるとお示しして、これに対して意見をいただきましたが、今回、数字としてその傾向、自然減、社会減の状況が示された訳ですが、これは確認作業であり、目標の人数がこれで適正なのか、あるいは目標はあったほうがいいのか、皆さん話し合っていたらいいと思います。それにあたっては、総合戦略の説明を伺ってから皆さんのお話を聞きたいと思いますが、今回の資料1で示された数字について質問とか、詳しく聞きたいというお話がありましたらお願いします。

印象としては、数字で出されるとやっぱりなあという感じですね。

委 員

ご説明ありがとうございます。33 ページまでは現状の分析なので、実態の分析ですので、ここに書いてあることはそうだろうというところですが、34 ページから始まる人口推計ですが、ここで突然合計特殊出生率を2.1まで仮定するということであって、とても飛躍があると感じます。前半の説明を聞く限り、箱根というのはさまざまな状況があるなかで、今の説明ではコメントされなかったのですが、直近の出生率は0.74まで落ちています。他の市町村よりも厳しい状況のなか

で、2.1 という数字を仮定で置くロジックはどこにあるのかということ。34 ページからのものは、推計というより、ただ単に、出生率を2.1に置いた場合のケースを計算したとしか受け取れないのですが、そのあたりをもう少し詳しく説明いただけますか。

事務局

具体的に、ご指摘のように、現在の合計特殊出生率を人口置換水準である2.07にするためにはどうすればよいかということは、今のところ仮定として置いておくだけで、総合戦略のなかでどうやって、例えば、先ほどの43 ページ基本目標2、結婚・出産・子育ての切れ目のない支援を行うというようところで上げていくしかないと考えています。ただ、現段階では、具体的な手法として挙げている訳でなく、あくまでも希望的な仮定として置いておくだけです。ただし、先ほども申しましたとおり、単身世帯や未婚率が高い状況がありますので、そういう方たちに結婚・出産・子育ての切れ目のない支援を行い、町に定着してもらうことによって出生率は上がっていくという、極めて希望的ではありますが、そういう仮定で置いてあります。

座長

委員のおっしゃるとおり、あまり根拠が無い希望的観測による数字であるということですね。このパターンで目標設定していいかということをお考えないといけないですね。

委員

そこがその地域の選択になると思うのです。ですから、町としてどういう姿を描くかによって置く前提なり目標も変わってくると思うのですが、例えば15 ページの図表6-2 というのがありますが、とても重要なデータで、核家族の夫婦と子供からなる世帯が減っていて、逆に単身世帯が増えていると、要は、若い人はいるけれども、子どもを産み育てる世代は、小田原なり地域外に移動しているようだというので、出生率をあげるということだけを目指すのであれば、ここをどうするかに尽きるのですが、例えば空き家がたくさんあるので、それを非常に安い家賃でお貸しするとか、旅館業の社員寮などに助成するなどが考えられます。ただ、私としては、それでも2.0というのは達成可能なレベルなのかという現実性の問題と、あとはそういう方向を目指していいのかということ。むしろ、小田原に住んで、箱根に通うというライフスタイルがある程度定着しているということであれば、小田原とセットで反映していくという道もあるのではないかと。ぜひ皆さんにそういう視点で議論していただくといい

座長

のではないかと思います、問題提起させていただきます。

皆さんのご意見はいかがでしょうか。確かに箱根町だけで考えると難しいことがあり、現実を踏まえると、箱根町だけの問題でなく、小田原とのセットで考えていく必要もあろうかと。箱根は箱根で独自の路線を守るべきだという意見もあろうかと思えます。後で皆さんにお伺いしようと思っておりましたが、現実問題とシミュレーションとのかい離があるのではないかと皆さん思っているかと思えますので、ここで一旦ご意見を伺おうと思えます。

委員

0.74は驚きました。私結婚して子ども3人いますが、子どもの教育環境が不安、日常の買い物が不便、町内の医療機関が十分でない、確かにそう感じています。ただし、私が住んでいるのは子どもの教育環境が十分でないということだけでなく、確かに高校大学は無いですから出ていかざるをえないですし、子どもの人数が少ないから競争の場が無いということではないと思えます。確かに不安はありますが、そこまでは思っていないです。環境についても芦ノ湖があって自然を守って子どもを育てるということは素晴らしいことだと思いますし、自分の半生も育てられたと思っています。働く場所があまりないということは、確かに多くなく、中小企業が多いのでそう感じるのかもしれませんが、もっと見ていただければと思います。

商工会議所の方でも産業まつりでなりわい体験というのをやっています、仕事をやっているところで子どもたちが仕事を体験する、こんなものがあるのかということを見せられたら箱根に残りたいという人も出てくるかもしれないと考えます。

日常の買い物、確かに不便です。傍にあるのはコンビニエンスストア、買い物は小田原か三島になり、それは昔からなのであまり感じてはいないのですが、転入されてきた方からすると感じるのだと思います。日常の買い物は不便というよりも車の問題で、渋滞よりもガソリン、タイヤの問題、雪、スタッドレスタイヤの手当てなどが辛いと感じます。医療機関に関しては、何かあった時に、医療機関の休みが多いこともあり小田原に降りざるを得ない状況を、もう少し医療機関に関してはやっていただきたいのですが、病院側からすると、この人数でやっても採算がとれないということも

座長

あると思うので、難しいかなと思います。行政サービスに関しては、不満は無いです。

委員

ありがとうございました。確かにそのとおりであり、そういう意見は前回も同様の話がありましたが、ほかに数字に関してのご意見はいかがでしょうか。

出生率2.0は有り得ず、今後は減っていくのではと思います。例えば住まいの問題が一番あると思います。賃貸ですと現状では単身者向けか大家族向けの二者択一が多く、3人家族だと広すぎる、4人家族だと狭いなど、適した賃貸が無い状況で、それは出ていきたくなくとも思います。一般の人は、住むに住めない、やむなく転出という状況だと思います。

事務局

17ページの仕事のところですが、箱根町の最低賃金はいくらでしょうか。

委員

905円、神奈川県下同じです。

事務局

箱根町の中でベッドメイクなどする派遣会社は箱根にありますか。

委員

無いと思います。

そのあたり、箱根に働きに来る人が多いのかなと感じますし、この辺りのコンビニエンスストアで働いている人も、小田原に住んでいる人が多いようです。その背景は分かりませんが、地域に仕事があるけれども地域で働かないという人も多いと思います。

あと、お祭りなどで人と知り合くと、それなりの年齢で独身の男性が多く、今後も増えていくのではないかと感じます。結婚で転出するのかもしれないが、町内で自分の将来、子育てのビジョンを描くことは大半の方ができないのではないかと感じます。仕事も観光関係しかなく、観光施設を建てている人、会社が多く、結局観光がらみが8割、9割であり、それ以外の職は無い状況で、どこかにIT企業の誘致案などがありましたが、小田原あたりでもIT企業はほとんど無く、藤沢、横浜あたりまで行かないと無い状況。

ただ一方でピンポイント的に人口を増やすことは、戦略的に取り組めば可能だと考えます。マレーシアではマルチメディアスーパーコリドーをやっていて、認定企業に対しては10年間課税されないという状況。そこに流出している企業は結構あり、どういう会社かというところ、業績が良く日本に納税せずマレーシアに行って無税で稼ぎ、10年間の就労ビザで働いたり、人を雇ったりしている。会社には課税できないが、

働く人には課税され、また飲食があるなど、その税収をマレーシアは見込んでいるというものです。産業のハブとしてITを設定している。

このように観光以外の柱を町で決めさえすれば、そっちに行けるとは思いますが、決めないことにはそれもできず、どうしても観光に頼らざるを得ない、変わらない状況かと思えます。

座長

ありがとうございました。数字的根拠、これを目標とすることに本来であればもう少し検証しなければならないとは思いますが、この場で検証をできるものでも無いと思えますので、事務局の方で、それにのっとった総合戦略というものを議題として用意してもらっていますので、それを聞いてその後、皆さんのご意見を伺っていこうと思えます。

イ 箱根町総合戦略について

座長

それでは議題（2）「箱根町総合戦略について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局から資料2説明】

副課長

本日お示ししております、総合戦略の資料については、現在、検討段階でありまして、第1回目の有識者会議での皆様からの意見、昨年度実施しました総合計画における町民アンケートや町民ワークショップにおける意見、昨年10月より、町若手職員による定住化のためのプロジェクトチームの結果報告、昨年度策定しました子ども子育て支援事業計画、これらの意見等を参考に、基本目標等を事務局案として大枠をまとめたものであります。

表紙の裏、1ページから3ページにわたり、総合戦略策定に関する基本的な内容が記載されておりますが、1ページの目的・背景、2ページの政策5原則については、前回の会議でも説明させていただいておりますので、省略させていただきます。

続きまして3ページの体系と期間であります。計画期間は今年度から平成31年度までの5年間とし、国の示す政策4分野ごとに5年後の基本目標と、実現すべき成果に係る数値目標を設定することとします。また、計画のフォローアップと、効果検証、改善について、記載していくこととします。

4ページをお願いします。人口ビジョンを達成するための

基本目標になります。

人口減少対策を進めるにあたっての方策として、社会減や自然減の改善、人口減少社会を前提とした社会基盤の構築を進めることとし、国や県の基本目標を勘案し、4つの基本目標を設定しました。

基本目標1として、「箱根町への新しい人の流れをつくる」

基本目標2として、「結婚・出産・子育ての切れ目のない支援を行う」

基本目標3として、「人口減少社会に対応したまちづくりを進める」

基本目標4として、「町内で安心して働けるようにする」

特にご意見をお聞きしたい点として、この基本目標案についてと、基本目標の順番についてです。国では、雇用、人の流れ、結婚・出産・子育て、地域づくり、県においても、同様の順番になっておりますが、国では、まずは、地方における雇用の創出が一番大切だとして、目標の1番目に持ってきているようです。本町では、観光産業を中心に、比較的雇用には恵まれているということを考慮し、人の流れ、結婚・出産、まちづくり、雇用の順がよろしいのではないかと考えています。

5 ページ以降が各基本目標別の方向性、具体的な施策の事務局案になります。

基本目標1「箱根町への新しい人の流れをつくる」ですが、「基本的な方向性」として、大きく3つをお示ししておりますが、施策の検討材料として、前回の有識者会議においては、観光地としての特色を生かすこと、在勤者に住んでもらうことなど、町民アンケートでは、良好な自然環境を住み続けたい理由としてあげ、温泉、自然環境を観光等に生かすべきなどが挙げられています。6 ページに具体的な施策の方向性として5つ、更なる国際観光地としての魅力づくり、箱根ジオパーク等、地域資源を活用した魅力づくり、県西地域活性化プロジェクトの推進、若い世代への定住支援づくり、地域内外に箱根ファンをつくる、として、現在先行交付金を受領して実施している事業も含め、現段階で考えられる内容をお示ししております。

「新しいひとの流れをつくる」という基本目標に対する、目標値、KPIですが、転入者数と観光入込客数を想定しております。

続いて7ページをお願いします。基本目標2「結婚・出産・子育ての切れ目のない支援を行う、です。

「基本的な方向性」として、大きく3つをお示ししておりますが、前回の有識者会議においては、子どもを育てる環境があまり無い、出会いの場が無く、結婚適齢期の独身者が多い、また、子どもを3人以上育てると圧倒的なメリットが得られるような仕組みづくりといった具体的なお話も頂戴しました。また昨年度に策定しました子ども子育て支援事業計画アンケートでは、本町の子育て支援施策への満足度が比較的高いこと、また、子育てに必要なサービスとして、子どもを遊ばせる場、機会の提供を求める声が多かったという状況であり、これらを参考としたものです。

8ページに具体的な施策の方向性として、出会いの場の創出、子育て世代への負担の軽減、ICTを活用した小中一貫教育の実施や語学教育、働く親への支援、などの7つ方向性と、それにぶら下がる施策内容をお示ししております。

この「結婚・出産・子育ての切れ目のない支援を行う」という基本目標に対する、目標値、KPIについては、出生数や合計特殊出生率、婚姻数を想定しております。

9ページをお願いします。基本目標3「人口減少社会に対応したまちづくりを進める」です。

「基本的な方向性」として、大きく3つをお示ししております。公共インフラを永く、有効的に活用する取り組みとして、町道の改良という内容を挙げておりますが、ソフト事業が中心となる総合戦略としては多少違和感がありますが、人口減少社会に対応したまちづくりという目標や、町民アンケート結果として、道路整備に関する満足度が低かったことなどから挙げたものです。ほかに10ページに具体的な施策の方向性として、空き家の有効活用を図る、まちづくりを行う町民や企業への支援、生活利便性の向上を図るなどの6つ方向性と、それにぶら下がる施策内容をお示ししております。この「人口減少社会に対応したまちづくりを進める」という基本目標に対する、目標値、KPIについては、道路改良率や空き家の活用件数を想定しております。

11ページをお願いします。基本目標4「町内で安心して働けるようにする」です。

「基本的な方向性」として、大きく3つをお示ししており

ますが、昨年実施した町民ワークショップでは、町内企業への地元住民の雇用の制度化や箱根に住んで、箱根で働くといった意見があり、アンケート結果では、若者が働くために必要なものとしては、収入、仕事のやりがい、楽しさという意見でした。これらを参考としたものであります。

12 ページに具体的な施策の方向性として、創業支援の実施、就職のための支援の実施、後継者育成支援の実施、IT企業等の誘致、という4つ方向性と、それにぶら下がる施策内容をお示ししております。

この「町内で安心して働けるようにする」という基本目標に対する、目標値、KPIについては、雇用創出数、就業者数を想定しております。

座長

前回の皆さんの意見などを活かしながら案を作ったということですので、それに対する意見、また、基本目標の順番についてご意見ありましたらお願いします。

委員

空き家対策を語る前提として、住まわれている人の意見、特に外から来られた方の意見、住んでみてどうだったのかという意見が、これからのまちづくりを考えていく上でヒントになると思います。そこの満足度を上げていくことが非常に重要だと思っていくなかで、あまり満足な意見が無かったということで、何かを変えていかなければいけないということだと思います。何に満足していないかは前回お話を聞いたような中身だったので、子育てを考えたなかで、教育の施設であったり、費用の問題であったり、基本的な生活に必要な施設が無いということが一番の問題だとおもうのですが、それでも昔から住んでいる人は、それは慣れっこだということもあろうかと思えます。町の中だけで人を増やしていこうということは難しいので、やはり転入してくる人口、なおかつ定住していただける人口を増やしていかなければならないと考えると、そこは雇用なのか、教育なのかという順番はもう少しご意見を伺いながら煮詰めていかなければいけないと思います。そのなかで、ひとつは国立公園法の縛りがあり開発などは難しいのですが、そういった意味では空き家対策などは後の施策としてあると思います。しかし、前段で人が来たいという状況に持っていくのに、空き家のリフォームなどをやっても、実際に来て住もうとしたら、あれっという話になってしまう、そして出ていってしまうということになってしまうので、もう少し詰めていく必要があるかと思えます。

- 出会いの場の話ですが、委員さんにもお聞きしたいのですが、これは昔からどうなのでしょう。商工会議所の集まりとか。
- 委員 確かに無いです。商工会議所も男性ばかりなので。同級生もほとんどの方が結婚して出て行ってしまうので。知り合いの紹介とかを使わないと難しいのかなと思います。あとはホテルの従業員さんとマッチングできるのかなどです。
- 委員 そうすると出会いの場をどう創出していくのかという政策ですが、そのあたりはどうしていきのかが首をかしげるところです。もう一つは先ほども言われていましたが、私自身は、箱根単独でとか小田原単独でとか考えている状況ではないと思います。県西地域全体、2市8町のくくりの中でどうしていくのか、国も人口30万人程度をひとくくりで考えているので、ちょうどいいのではないかと、その方が現実的ではないかと思えます。町の創生会議でそれをどう織り込んでいくかは難しいのですが。
- 座長 確かにそのとおりですが、各行政で考えなければならないことと、巻き込んでやることの区切りで難しいとは思いません。
- 委員 資料1第3章まとめのところですが、私も箱根に来て、不便さを痛切に感じているところです。そこで思うのですが、箱根といっても広く、学校に関しても医療に関しても買い物に関しても、条件が全然異なる中で、区別して考えないといけないと思います。人に移住してもらうにしても、どこに移住してもらうのか、どこに定住してもらうのかということ、皆が同じ条件ではないということだと思えます。また、施策がいろいろ書いてありますが、この資金はどこから出ていくのかがとても大事な話で、無ければ何もできないということだと思えます。やはり箱根は観光産業、直接、間接、ほとんどの方が観光に携わっているなかで、観光を盛り上げないと、町が盛り上がっていかないのではないのかと思えます。箱根ってすばらしいねと、ただ、現状は来たい所の一番は箱根だけれども、実際に来た感想は下に近いと聞いたことがあります。この下に近い観光客の希望を、レベルアップさせるにはどうすればいいのか、その辺が無いと、レベルアップにはならないと思います。それによって初めて税収、入湯税も含めて税収が増えていろんなことに手を付けられるの

- ではないかと思えます。
- 座長 満足度が低いということですか。それはアンケートかなにかでしょうか。
- 委員 みたいです。箱根というのは知名度が高いなかで、知名度で仕事をしてきてしまったのではないかと感じます。物の見方が狭いなど、町民とのギャップがありますよね。
- 委員 基本目標はこれでよいのではないかと思えます。戦略の中身についてですが、やはりビジョンとか戦略とかを作るにあたり、行政だけで作ったものではなく、地域に住んでいる方が納得して協力してやっついていかないと、住みやすいまちづくりにつながらないと思えます。そういったことを考えますと出生率等の数値や、施策に係る予算について、現実可能な目標を掲げる必要があると思えます。また、本戦略の最終目標は人口を増やすことではなく、箱根に暮らす人が幸せに暮らせるということだと思えますので、目標数値を掲げるだけでなく、なぜ、その数値の根拠として、この数値が達成できないとどのような不都合があるのか、つまり、地域が成り立たないとか、地域の方が幸せに暮らせないとといったことを出していった方が地域の方々に説得力を持つのではないかと思えます。その観点からは、単に人口を増やすというだけでなく、小田原に住んで箱根に働く人、観光客、こういった人たちをどう位置付けていくかが重要ではないかと思えます。
- 戦略の策定・実施にあたっては、悪い点を改善するということと、良い点を伸ばすことの両方向が必要だと思えます。今回の会議の議論でも、多くの課題が挙げられていますが、一方で、箱根町には、住みやすさの観点から、良いところもたくさんあります。私がすぐに思いつくだけでも、自然がたくさん残っているとか、地域の方たちの連携があって、子どもを一緒に育てていくという雰囲気があるなどが挙げられます。そういう良いところも探して、良いところや悪いところを整理して発信する、悪いところはできるだけ改善して良いところを伸ばしていくということが大切ではないかと思えます。
- 最後に、細かい点ですが、箱根の自然を守っている制度である国立公園について、例えば基本目標1の①bのところにも位置付けるなどを検討いただければと思えます。
- 委員 目標の順番について、先程来出生率の話が出ていますが、箱根町において、箱根町独自で考えていくのか、広域で考え

ていくのかによって変わってくると思います。人口の話で未婚率がありましたが、未婚率の年度を2010年で年齢を20歳から30歳に限定してみると、箱根町の未婚率は72.84パーセントで、神奈川県内で一番高い数字になっています。ですから20歳から39歳、これから結婚すれば、ちょうど子育てにも良い年齢の人たちが結婚していない箱根町ですから、出生率を考えていくのであれば、基本目標2を重点的にやっけないと出生率を上げようがないと思います。ただ一方で、出生率を上げることは、あなた結婚しなさい、子ども産みなさいなど、強制できる話ではなくハードルが高い。今までの海外の事例、出生率が上がったところを見ると、都市部でやった方が効果は出やすいということもあります。町内でいくのか、広域化という話もありましたが、神奈川県で自然増を図るという意味では、県西地域の人口は県全体の4パーセントですから、そこでの出生率を上げることを考えたら、横浜川崎でやった方が効果的だと思います。町で2.0にこだわってやるとなると、現状の未婚率などから考えるとかなり厳しいとは思いますが、これを重点にするのであれば、一番厳しいところは結婚出産ですので、これを重点的にやっていく必要があるのかと思います。基本目標1のひとの流れをつくるはその次でもいいのかなと思います。

あと基本目標1の新しいひとの流れをつくるというところで、皆さんはどう思われているのか分かりませんが、外部の人から見ると箱根はハイクラスのブランド、成熟したブランドになっていて、ある旅館が1万円の宿泊をやるとなった時に、箱根はそこまでやるのかと驚かれた。要するに安い商品が無く一泊5万6万当たり前ですから、そうすると若い人が来ない状況です。他の仕事で大学生とコラボして旅行商品とかを考えてみないかとやってみたのですが、大学生が箱根に遊びに来たことが無いと、若い人からかけ離れたブランドになってしまっているのですね。ここの中で、ジオパークとか既存のツールが入っていますが、地方創生、人口減少に向けた新しい人の流れをつくるということでは、若い人にかに来てもらうかというそこを考えていかなければいけないなど。逆に、国際観光地、外国人旅行者が、どう人口減少につながってくるのかと思います。通常の観光戦略としてはありますが、外国の人が来て、地元の人と結婚するなどの戦略

座長
委員

を狙っているのか、そのあたりの位置付けが疑問に思いました。

どこに重点を置くかが難しいですね。

4つの基本目標ですが、この4つが優先順位で並んでいるという説明はしない方がいいかと思います。並列に並んでいるという整理をしたらどうかと思います。

やはり地域全体でどうしていくのかを考えたときに、箱根はどういう役割を果たせるのかということです。それが見えてきたら、果たすべき役割というものを、この目標の中に盛り込んでいただければより良いかと思います。観光が非常に重要なわけで、ハンカチを置いて持ち上げると富士山のように持ち上がるわけですが、このように箱根が地域全体の牽引力となる地域になり、それにつられて周りも豊かになるという、維持できるという、地域全体の発展を考えた方が箱根単独でやったり考えたりするよりも、町の人も企業もより豊かになれると思います。ついでですが、7ページの基本目標2の基本とする目標ですが、行政が出生数や出生率を目標とするということは余計なお世話ということで、個人の選択の結果なので、あくまで結果としてついてくることで、これを目標とすることは、私は違和感があります。むしろ子どもがいる世帯数とか、下に書いてある施策、例えば小中一貫校への通学児童数とかから直接結びつく数値の方が私は許容できます。逆にどんなにいいことをやっても、出生率や出生数が達成できなければ、これは失敗でしたということになってしまうので、それは違うと思います。目標設定は慎重にやられた方がいいのかなと思います。

座長

出生率や出生数、このような目標設定は国の方から示されているのでしょうか。

事務局

ないです。

座長

今言われた世帯数とか、通学児童数とかでも構わないでしょうか。

事務局

構わないです。

座長

それはちょっと検討していただいた方が、私もいいかなと思います。

委員

目標の順番については優劣つけるべきではないかと思います。それぞれが大切であるかいいかと思います。計画にあたっては、現状厳しい認識とかありますが、長期的な認識をもって取り組むべきだと思います。今は難しくても、長期的に

考えれば解決できることもあろうかと思っておりますので、そういった観点からも考えていくべきかと思っております。また箱根町というのは国際観光都市であり、日本の中でも有数の観光地であります。特別性を持った町、これが強みでもあります。人口の問題についてはいろいろありますが、もっと観光客が増えたり、魅力が高まったりということをしていけば、自然と労働人口が増え、労働人口が増えれば人口の問題も少しずつ改善していき、今よりも便利な町として改善していくのかなと思っております。ほかに基本目標4、安心して働けるようにするというところですが、最近の企業では後継者問題というのが言われており、旅館ホテルの経営者の後継者がいなくて廃業してしまうというケースも中には考えられます。そういった中で、事業承継の手助けをするということも考えてもいいのかなと思っております。廃業を考えているという方を別の方に紹介する、いわゆるM&Aという仕組みをつくりながら雇用数を守っていくという考えもあろうかと思っております。

委 員

目標はどれが大事ということはないと思っております。2市8町的な考え方に私は賛成で、その中で、箱根町が担っていくところを強調して計画を作っていくのかなということが、最後の落としどころかなと思っています。ただ、日本の人口を1億程度は保ちたいということがあるので、それを全国の自治体が一律に考えられないということが現実的だと思いますので、箱根町としてはK P I的なところが抜けられるのであれば抜けた方がいいのかなと思っております。ただ、2.1で行かなければいけない事情があるのか分かりませんが、得意なところで行くべきかと思っております。

K P Iですが、これからいろいろな施策を打っていくと思っておりますが、この施策に対しても、きちっとP D C Aができるような、具体的な施策を立ててそれができているかどうか、結果として、K P Iがいつているかどうかという流れを作ったほうがいいかなと思っております。

最後に、地方創生の話が出てきたときを思い出したのですが、原点に戻れば、日本全国の市町村が元気になればということですので、それを踏まえて、箱根が一番得意な所を担うということでもいいのではないかと思います。また、この計画自体も箱根町で出さなければならないことも重々承知はしていますが、ネットワーク的なところも、折り込めればいい

座長

のかなと思います。計画を作っても実効性が無いのかなと思います。

事務局

数値目標の指針は国なりからあるのでしょうか。最低ここまでとか。これ以上にしなければいけないとか。

座長

無いです。

事務局

数字は挙げなければいけないのでしょうか。

委員

指標として具体的な数値は挙げないといけないです。

基本目標に関しては、並列でいいのかと思います。労働者として話をさせていただくと、ホテル業を今後10年間で見てみると、労働力不足というのが一番の懸念材料です。この労働力不足というものをホテル業で見えますと、東京都内に集中しており、今も都内の有名なホテルからのヘッドハンティングなどもあります。これから大学卒業して優秀な人材と見られる方は都内のホテルへと行ってしまおうという懸念材料があります。そのなかで、企業として人の流出を防ぐ対応と町として労働力の流出を防ぐ対応はリンクしていかなければいけないのかなと最近感じています。そこで我々が今、労働組合として取り組んでいるところとして、仕事と育児の両立ということで、実は昨日も会議をしていたのですが、働く者として親として、町民、市民としていろいろな要求があり、それを一企業だけで対応することは無理であるため、そこは町であり自治体であり、国のサポートが無いとできないことです。今回の地方創生もそうですが、先に制度が設定されてしまい、会社でついて行こうとして、なかなかうまくいかないという繰り返しが続いているという印象です。何が一番重要なのかということと、箱根町がどういう町でありたいのかということ、私の中でももう少し整理して、こうあるべきということを皆で認識を統一して、もう一度話し合うべきと感じました。新しい人の流れということで浮かんだのは外国人労働者の受入れだったり、観光産業ということでは、共働きがしばらくという状況の解消であったりということなのですが、労働者をとどめることは企業の力ということですが、自治体の力も間違いなく必要になってくると思うので、私自身の整理ができていない状況ですが、もう少し検証していく必要があるのではないかなと感じます。

委員

基本目標については特に順位とかはないのですが、2と4は背中合わせだと感じます。これはセットで考えないといけ

ないと思います。仕事が無いことには生活できないので、箱根の町内で働くことを考えると、観光をもっと太くしていかないといけない、観光以外を創出することは難しい、無いものを作り出すことは難しく、あるものを太くしていくことの方が優先順位としては高いと思います。観光を活力あふれるということをしていければと思います。外から箱根を見ると、大きなホテルなどはホスピタリティがしっかりしているが、家族経営のところは自分たちのレベルを上げていくのは構造的に難しいと思います。残念な接客をしているところが飲食、宿泊業もそうで、経営者、窓口それぞれルーティンワークになっている。一方で、旅に来る人は一生に一回ということかもしれないですし、箱根というブランドで、期待値が高まっている。それが窓口の人のルーティンワークに接した時のミスマッチが期待値を下げてしまい、リピーター率を下げていると感じています。旅行好きの人たちが来ていることを、家族経営の方々の研修というのを町の仕組みとして観光協会などを活用してできないかと思います。そうしないと、また来ようという気にならないのではないかと思います。

箱根湯本駅でも小田原から箱根湯本に着く電車で、外国人観光客は乗り換えに不便な小田原側の車両に乗っていることや、終着だと分からずにそのまま乗ってしまっていることも見受けられる。ブランドがあるから観光客は来るのだが、また来ようとは思ってくれない。結果として、先細ってしまう。「あの頃は良かった」という昭和30年代～40年代の話を聞くが、それは先人が作って積み上げてくれたものであり、それを引き継いでいる人は、開拓者精神を持った人は少なくなってしまう、それが残念だと感じています。

座長
委員

すべての宿泊施設がそうということはないのですが、昔に比べて散見されるということでしょうね。

基本目標については私もすべてがつながってひとつの魅力のある住みたくなる町になるのかと思います。

私が住んで働いて思ったことは、箱根はすごく観光でいいところというイメージがあったのですが、住んでみると、働くだけの町なのかなという印象です。働いている人が楽しめる場所があまりない、仕事が終われば暗いし、どこに行くという訳でもない、仕事が終わった後の映画やカルチャーなどの楽しみが無いと感じています。そういった生活する人の楽

しみがあれば、出会いもそうですが、あらためて婚活パーティーだとか、同じ世代の人が集まってというのも気恥ずかしい感じがします。自然と集まれる場所があれば、例えば、観光客の人と地元の人が交流できるような場所があれば、自然につながりも生まれ、出会いも増えるのではないかと思います。

移住、定住となっても、それは非常に勇気のいることで、お金もかかってくることです。今の都内の若い人は、車を持たない人がほとんどなので、まず、そこからの準備で、女性に関しては、運転免許を取ることから考えなければいけない状況です。まずは、箱根を好きになって、その関係性を持続しながら、いずれはここで住みたいという気持ちになってもらうこと、そして町も変わっていくこと、住んでも楽しい町、コミュニティもある良い町だなと思ってもらえるようになればいいのだと思ひまして。

ウ その他

座 長 それでは議題（3）「その他」について、事務局からお願いいたします。

副 課 長 資料3ということで、お配りさせていただいておりますが、現在までの地方創生に関する取り組み状況、また、昨年度から取り組んでいます第6次総合計画について、10月3日に地方創生まちづくりフォーラムとして町から報告させていただきます。また、併せてフリーキャスターの堀尾正明さんのご講演をいただきます。委員の皆さんも、ぜひご参加いただければと思います。よろしく申し上げます。

座 長 それでは本日の会議これで終了します。皆さんありがとうございました。